

卒業生紹介



氏名：伊藤 麻衣子（いとう まいこ）

卒業年度：平成17年 土木科卒業

出身中学校：西仙北西中学校（現・西仙北中学校）

勤務先：株式会社東北構造社（本社：宮城県仙台市）
同社 執行役員副社長

◇現在、担当している仕事について教えてください。

私は、東日本大震災が発生した年に土木構造物の設計を主とする建設コンサルタントの会社に入社しました。

業務は、多岐にわたりますが私は、若手の時に大手ゼネコンへ出向となり、東日本大震災の津波によって流された線路を沿岸から内陸に新設する工事の施工管理をさせていただきました。現在は主に鉄道工事など施工計画に関わる設計に多く携わらせていただいています。

震災から間もなく10年、宮城県では今もお震災の傷が癒えない、復興していない地区がまだあります。また、近年では河川の氾濫を伴う大雨災害も発生しております。そのため、官公庁発注者の職員が不足し、そちらを補助する支援業務も行っています。私たちの暮らす東北の復興のために、これからも貢献できればと思っています。

◇どのような高校時代を過ごされましたか

高校ではあまり真面目な生徒ではなかったと思いますが、授業は真面目に受けていたと思います。特に、測量の実習授業は楽しく、実際に測量機器を触り、どうしたら効率よく測れるのかなど練習した記憶があります。

部活動は先生に頼み込んで陸上競技部のマネージャーをさせていただきました。当時、女性の部員は入れないというルールだったようですが毎日頑張って練習に通い続け、正式に部員にさせていただきました。

高校の3年間はとてもあっという間でほとんど笑って過ごした記憶しかありません。先生方にもとても親身になっていただき大変感謝しております。

◇中学生にメッセージをお願いします

中学の時点で自身の将来を見定め職種を絞るのはとても難しいことだと思います。

少なくとも何が好き、何が嫌い、なかだけのはっきりしていれば私は十分だと思います。モノづくりが好き、図面を描いてみたい、測量をやってみたいその好奇心を止めることなく進むことが大切です。

また、土木と建築の違いを知ることとても面白いものです。暮らしに必要なものや便利なものを造るのが土木、人が暮らす空間を造るのが建築です。

土木と簡単に一言で言ってもとても広い分野です。道路、橋梁、ダム、トンネルそれぞれがどんな役割を果たしているのかどのように出来ていくのか、その工程を知るのもスケールが大きく、新しい発見ばかりです。

医者だけが人の命を守るわけではありません。道路、橋梁、トンネルがなければ人は円滑に移動ができません。ダムが無ければ大雨から災害を守り、1年中安定した水を得ることはできません。

土木の技術が人々の暮らしを支え、豊かにし、そこに安心・安全を提供する。半永久的に自身の関わった仕事が地図に残る。土木という分野は、日々進化し、魅力あふれるものだとことを知ってほしいです。